



保護者会通信

2010年(平成22年)3月1日 No.2

編集・発行
京都ノートルダム女子大学
保護者会事務局
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL:075-706-3700 FAX:075-706-3707
e-mail: hogoshakai@notredame.ac.jp

※平成21年度ND祭報告※

10月24日 バザー実施

昨年に引き続き第4回目のバザーを開催致しました。昨年と同室208教室において、保護者や卒業生の方々、また本年度より教職員の皆様からもご寄贈いただき、ますます賑わいのあるバザーとなりました。昨年までは2日間の実施を、本年度は1日と致しましたが、前年以上の収益を上げる事が出来ました。

ご寄贈を賜りました多くの皆様と、お買い上げいただきました皆様に、心より感謝し御礼申し上げます。また、理事・評議員の皆様には、事前の何日もの準備や当日のお手伝いなど、大変お世話になりました。紙面を借りまして改めて御礼申し上げます。



バザー実行委員長
小長谷 光代

バザー収益と 寄付のご報告

平成21年度ND祭バザーの収益金は、209,440円でした。この収益より、学生が日常に活用出来、又次年度以降のND祭にも利用出来るアルミ製のイス・テーブルを大学に寄贈致します。また、ハイチ地震被災者救援募金にも寄付させていただきました。

10月25日 保護者会大賞 抽選会実施

ND祭の活性化を目的とし、在学生の参加を願い第2回目の本学学生対象の抽選会を開催しました。本年度は抽選会場を中庭において開催し、景品には、Wii、デジタルカメラ、電子辞書、iPod、Dsi、学食プリペイドカードを用意し、昨年に増して多くの学生が集まり賑わいました。

本学仮校舎を京都工芸繊維大学の校地に建設



【仮校舎の当初計画】
本学においては、昨年4月の新学長体制発足後、法人本部の意向を踏まえつつ、北山キャンパス総合整備計画を積極的に推進しているところですが、その中で、校舎建替工事期間中における授業実施の一部として、本学近隣の京都工芸繊維大学(以下「工繊大」)の校地に本学の仮校舎を設置することにより対応することになりました(平成23年度を予定)。現在その建築に向け工繊大のご協力のもと、準備を進めているところですが、これらの経緯、進捗状況等についてお知らせしたいと思っております。

【仮校舎の建設】
このような状況の中、工繊大との「連携・協力」に関する包括協定(昨年6月19日)「さら」に同協定に基づく「施設等の相互利用に関する覚書(昨年7月30日)」を締結したことにより、工事期間中において工繊大校舎の一部や同大校地の一部に本学の仮校舎を設置して授業を実施することが可能となりました。

【仮校舎の進捗状況及び概要】
建設に向けた両大学での協議により、仮校舎の設計・監理者を選定し、昨年12月に契約を済ませたところです。本年5月には工事をスタートしますが、12月に竣工し、平成23年4月から供用開始される予定です。その仮校舎の概要として、RC造3階建(延床面積約1,500㎡)で、1階は主に大教室(150席)の他、多目的ホールや教職員控室及び事務室(医務室も含む)が配置され、2階には大教室(150席)及び小教室2(70席・59席)、3階には大教室(150席)及び小教室2(70席・70席)が設置されることになっております。

なお、この仮校舎は、本学の校舎建替工事が竣工した後、工繊大に譲渡されることになっております。

保護者会より次の品物を ご寄贈いただきました

- 貸出用ノートパソコン 29台
- 貸出用バック 29個
- 貸出用ノートパソコン用マウス 54個
- パソコン収納ラック 3台
- 全演習室用ヘッドホン 170個
- 全演習室用マウスパッド 170個
- ソーラー充電器 2個
- ハンディ電子メジャー 1個

おかげさまで貸出用ノートパソコンが増え、より多くの学生に利用してもらうことが可能になりました。壁紙には「京都ノートルダム女子大学保護者会寄贈」と表示しております。

また、演習室用に髪型が乱れないヘッドセットと、保護者会の名前が印刷されたマウスパッドを購入させていただきました。ピンクとブルーのマウスパッドで演習室が明るいイメージになりました。貸出用機器としてソーラー充電器とハンディ電子メジャーを購入させていただきました。充電器は、太陽エネルギーで充電の充電ができます。ハンディメジャーは赤外線を利用した計測器で、天井から床など広い距離でも簡単に計測でき、イベント時のレイアウト作業などに使用します。

今以上に、快適に利用できる環境が整い多くの学生の学習に役立っています。(学術情報センターシステム管理課)

平成21年度 地区教育懇談会報告

平成21年度地区教育懇談会は京都、岡山、金沢、名古屋の4会場で開催しました。

- ◆京都会場(京都ノートルダム女子大学)
日時：平成21年10月3日(土)
13時30分～16時00分
- ◆岡山会場(ルガホール)
日時：平成21年10月4日(日)
14時00分～16時00分
- ◆金沢会場(ガーデンホテル金沢)
日時：平成21年10月10日(土)
14時00分～16時00分
- ◆名古屋会場(安保ホール)
日時：平成21年10月11日(日)
14時00分～16時00分



会場では、個別相談(成績・修学、学生生活、就職等)に応じました。



★親として普段気になることを少しでも先生のお話から聞いて帰ろうと伺いにきました。5～10分の間のお話でいろいろな心得を教えてくださいました。(京都)

★娘からの一方通行ではなく、学校側の姿勢がよくわかりました。個人的にどんどん相談させていたいただいて良いということもよくわかり、参加してよかったです。(岡山)

★学長先生のお話を直接伺うことができ、学科の先生にも個別に相談のついでにいただき、参加しなければ知り得ない情報も得られた。(金沢)

会場別参加者数	京都	岡山	金沢	名古屋	計
人間文化学部英語英文学科	14	3	2	0	19
人間文化学部人間文化学科	6	1	2	0	9
生活福祉文化学部	8	0	2	0	10
心理学部	16	1	5	2	24
計	44	5	11	2	62



★新しく建設されるユージニア館について詳しく説明していただきました。これからの学生生活についても詳しく説明していただきました。(名古屋)

カトリック教育センター

現在のカトリック教育センターの始まりは、1991年に設立された「キリスト教文化研究所」でした。キリスト教文化ならびに文化一般の研究を深め、本学の教育理念を学内に浸透させるとともに学外にも広めていくことをその目的として発足しました。その後2003年に、目標の中心を教育に据えるという意向のもと、「カトリック教育センター」へと名称が変わりました。本学での教育や諸活動にカトリック精神を生かすべく、種々の活動を行っております。

中心的な活動は本学での人間教育、宗教教育を担うことで、センター所属の教員は、一年次生の必修科目である「人間と宗教－キリスト教入門－」「宗教音楽」を始め、上級学年のためのさまざまな宗教・思想関係の科目を担当し、人間性が危うくされている現在の物質主義・消費主義の中で成長していく学生たちに、真の価値、人間のあり方を学んでもらうべく努力を重ねています。

毎年5月ごろに、春の講演会と称し、学内の学生、教職員だけでなく学外にも開かれた公開講演会を実施しています。ちなみに昨年の講演会は死刑の問題をテーマとし、死刑制度の存置を求める声の多い日本の社会に、人間が増しあうとともに赦しあう動物でもあることを訴えました。

秋には土曜公開講座を開催し、「キリスト教の思想・文化にふれる一今を生かすために－」という大きなテーマのもと、学内外の講師によるバラエティに富んだ講座を提供しています。

その他、紀要『マラナタ』の刊行、亡くなった方々を追悼するミサなどの宗教行事を企画・実施することもセンターの大切な仕事です。それ以上に大切なのは、学生のための司牧活動ですが、それについてはキャンパス・ミニスターの東先生が担当し、以下のような活動がなされています。

☆ キリスト教サークル (サークル名のみ紹介いたします)

バイブルクラス、平和サークル (ピース・マーチ)、手話サークル、聖歌を歌おう、聖書で祈ろう

☆ 月例ミサ

毎月第3火曜日の昼休みにチャペルにて、米田彰男神父様司式のもと行っています。誕生日を迎える学生・教職員のため、家族の病气など祈りを必要としている人のため、災害の被災者のためなどの意向をもって捧げられます。



☆ オープンカフェ

毎週金曜日の昼休み、キャンパスミニストリー室を開放し、フェアトレードによる東チモールのコーヒーを1杯50円で提供します。常連教員も交えて、学生たちは自由にお喋りしながら昼食をとることができます。コーヒーだけを飲みに来る学生もいます。50円で東チモールのコーヒー生産農家の支援に協力することができますし、有機栽培によるこのコーヒーはおいしいと好評でもあります。

カフェの日以外もキャンパスミニストリー室は開放されていますので、食事をするため、話しをするため、あるいは休息に訪れる学生もいます。



☆ シスターズラウンジ

シスターが少なくなった現在、少しでも学生たちとシスターの交流の機会を作るために、ソフィア館1階入口のところにシスターズラウンジを開設。月曜から金曜までの11:30~13:30、シスター2名が交代で在室し、学生たちと交流しています。21年度1年次生を中心にしばしば訪れて、おしゃべりやカードを楽しんでいるグループもあります。

☆ 募金活動

日本、世界のどこかで災害が起こった場合には、学生会やシグマソサエティなどと協力して募金活動を行っています。募金箱設置だけでなく、時には食堂前や学生ロビーなどで呼びかけ募金も行います。



聖堂 (ユージニア館2階)

聖堂は一人で静かに祈ったり、考えたりするところです。忙しい日々だからこそ、「祈り、瞑想、深呼吸」が大切だと思います。キリスト教信者でなくても、いつでも、誰でも、ご自由に神との語り合いのため、自分自身との語り合いのために、入って静かな一時を過ごしてください。

ホームページ <http://www.notredame.ac.jp/cec/>

平成21年度就職状況と 保護者の皆さまに望むこと

平素は本学就職課にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。今年度の就職を取り巻く環境は大変厳しいものですが、求人数は前年度比55%と落ち込んでおります。また業種でも本学学生の希望している「一般事務職」の求人に関しては特に減少しています。こういった中、就職課では4年次生に対して12月に2回、1月に1回合計3回学内で選考を伴う企業説明会を実施しました。学内で説明会、筆記試験、面接と行い、5名が内定に繋がりました。また2月には京都府の未定着支援事業とタイアップし、「京都府学生就職登録会」を開催しました。これは京都府が京都府・京都市で就職を希望する学生(下宿生可)に対し、学内で面接をし、学生が登録を行い、各々の学生の希望に応じた求人先を紹介してくださるシステムです。

このように、今年度大学におきましても新たな取り組みを実施しましたが、残念ながらこの厳しい状況は、次年度以降もしばらくは続くものと思われまます。そのような中で次年度から本学就職課におきましても「進路」というものをもう少し早期に捉えていただく意味で低学年からのキャリアサポートに力を入れていきたいと考えています。これは「就職」のみを意図するのではなく、入学当初からお嬢様方に「卒業後の進路」を意識した学生生活を送っていただくよう、支援していくものです。キャリアとは「就職」だけを指し示すものではありません。キャリアとは積み重ねるものであり、過去に積み重ねてきたことを現在、未来へと積み重ねていくという時系列の中で考えていくべきものです。こういった視点にたち、入学当初から「クラブ活動」「アルバイト」「ボランティア」「インターンシップ」等、興味を持ったことにはどんどんとチャレンジし視野を広げていただきたいと思っております。「かわい子には旅をさせる」ことわざではありませんが、保護者の皆さまには「アルバイトをする」と勉強に差を付ける「クラブをしていく」と、一言で片付けるのではなく心配の種は尽きないことと思っております。まずはお嬢様方を見守っていただき、その中で見守っていただきたいと思っております。

就職は言ってもなく、お嬢様方一人一人がエントリーし、選考試験を突破し手にするものです。お嬢様方はこの就職活動を通して、大きく成長されまます。保護者の皆さまは暖かいまなざしをもって見守っていただくようお願いいたします。実際の就職活動に臨む3、4年次生になってから、保護者の皆さまが考えられる以上に「お嬢様方」はご両親のことを考えています。自分の希望より保護者の希望にかなうように活動を進めている人もおります。保護者の皆さまの時代の卒業生と現在のそれは、大きく異なっていることも事実です。「大学全入時代」といわれ、大学への進学

野を広がっていただきたいと思っております。現在の就職状況は、保護者の皆さまのときに高卒であった求人が大半へと移行しています。「これは大学を卒業して就職してはならない」と、一言で片付けるのはよくありません。まずは、お嬢様の希望やこだわりをしっかりと見守っていただきたいと思っております。

就職は言ってもなく、お嬢様方一人一人がエントリーし、選考試験を突破し手にするものです。お嬢様方はこの就職活動を通して、大きく成長されまます。保護者の皆さまは暖かいまなざしをもって見守っていただくようお願いいたします。実際の就職活動に臨む3、4年次生になってから、保護者の皆さまが考えられる以上に「お嬢様方」はご両親のことを考えています。自分の希望より保護者の希望にかなうように活動を進めている人もおります。保護者の皆さまの時代の卒業生と現在のそれは、大きく異なっていることも事実です。「大学全入時代」といわれ、大学への進学

リーフレット発行

保護者会活動を身近に感じていただき、よりご理解いただきたいと思います。保護者会活動のリーフレットを制作中です。会員の皆様には、4月上旬に大学よりお送りする平成22年度前期学費納入のご案内に同封させていただきます。

保護者会活動についてのご意見を寄せさせていただきます。

編集後記

聖書のひとこと

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書 5:9)

前回取り上げた「心の貧しい人々は幸い」と同じ、真福八端の中の一節です。平和を願わない人はいないでしょう。でもここで語られているのは、ただ願うだけでなく、平和のために働く人々のことです。そもそも聖書で言う「平和」とはどのようなものなのでしょうか。

日本語の「平和」からイメージされるのは、戦争状態にないこととか家族や親しい人々の団欒といったことでしょうか。「平和」はヘブライ語でシャロームといい、日本語の「平和」をはるかに超えたダイナミックな意味をもっています。それは人と神、人と人、人と自然などあらゆる関係が完全な調和を取り戻した状態、あるいはそこに向かう動きといえます。人類が直面しているあらゆる問題、貧困、戦争、環境問題などすべてが、関係の崩壊に起因しています。壊れている関係を回復する、つまりお互いに他者の、他の生命の存在を配慮する、大切にすること、特に人間のエゴイズムの犠牲となっている小さなものを助け守ることが平和の実現の根本です。言葉で表現するのは簡単ですが、そのために実行しなければならぬことは膨大です。

カトリック教育センター Sr. 小久保喜以子



(M・K)